

令和 2 年 7 月 3 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03023

研究課題名(和文) 日本近世を中心とした「宗教統制」像の再構築

研究課題名(英文) The Reconstruction of the Image of "Religious Control" in Early Modern Japan

研究代表者

朴澤 直秀 (HOUZAWA, Naohide)

日本大学・法学部・教授

研究者番号：70377696

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：寺院史料の調査・整理・分析や、幕府などによる寺院の把握・統制に関する史料の調査・分析を行った。寺院史料調査に関して、近江国柏原の成菩提院について、現段階での報告を行い、概要を明らかにした。また、幕府による寺社の建立規制や、必ずしも教団を介さない寺社の直接的な把握について、通時的な検討を行い、その動向や、それをめぐる情報の錯綜などを明らかにした。さらに、全国的な教団の傘下に属さない地域的な教団について、その実態や幕府との関係を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、必ずしも狭い意味での「宗教」に関わらない動機による「寺社政策」の一つとして寺社の建立規制について注目し、その実態の変遷や、それをめぐる情報の錯綜などを明らかにするなど、従来の「寺院統制」イメージの相対化につながる成果を提示した。また、寺院領主・中本寺としての特質をもつ寺院の、地域的権力との関係や中近世移行期の問題など多様な論点を内包する史料について調査整理を行い、史料保全と、史料の特質の解明に向けた取り組みを行った。

研究成果の概要(英文)：Research director and research collaborators have researched, organized, and analyzed temple archives and documents related to the identifying and control of temples by the shogunate and other authorities. The interim report on the survey of temple archives on Jyobodaiin in Kashiwabara, Omi Province, is presented and the outline is clarified. Research director examined the regulations on the construction of temples and shrines by the shogunate and the direct identifying of temples and shrines, and clarified the trends and the confusion of information surrounding them. In addition, research director clarified the reality of regional sects that did not belong to a nationwide sect, and their relationship with the shogunate.

研究分野：日本近世史

キーワード：宗教統制 宗教政策 新地建立 寺社帳 越前四箇本山 地域的教団 中本寺 成菩提院

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

日本近世における「宗教統制」について、幕府によるいわば予定調和的な「宗教統制」の一つの核として仏教ないし寺社の統制があり、さらにその中核として寺檀制度や、本末制度などの機構や格式の、整備や固定化がある、という捉え方がなされてきた。そのことは、近世初期の段階で寺院・僧侶をめぐる「統制」の基本線が完成し、近世を通じて固定化していったかのようなイメージに結びついてきた。そして、家や社会と、仏教(を中心とした宗教)との関係について、近世初期を対象として形作られたイメージが、そのまま中後期にも当てはめられる状況が続いてきた。さらに、「宗教政策」が、他の政治的動向から独立して論じられる状況が続いてきた。

それにたいして研究代表者は、幕藩制下における教団の構造・編成原理を通宗派的に捉える仮説的視点を提示し、さらに、必ずしも「宗教」に対する統制とはいえない実務的な対応から、結果的に「宗教統制」と捉え得る法令などが生成する様相を示してきた。

2. 研究の目的

ここで改めて課題として浮上するのは、近世の「宗教統制」を、社会の変容との関係や、幕府政治の展開と政策課題などとの関係を具体的に吟味すること、そしてあらためて、漠然とした方向性としての「宗教統制」観念の通時的展開を明らかにすることである。

そのために、寺社行政の実務に当たる吏僚らをはじめ、奉行・幕閣をも含めて、彼らが持つ事実認識、さらには、漠然とした方向性としての「宗教政策」認識とを明らかにしていく必要がある。そのために、法令の起案・制定過程、裁判や実務をめぐる遣り取り、実務をめぐる問答、さらには先例書の編纂者の私見などを丹念にみていく必要がある。

その一方で、寺社や教団組織の実態や構造、それに関連した寺社行政の実態の再検討などからも、丹念に論点を抽出する必要がある。こういったことを目的として研究を進めていく必要があるのである。

3. 研究の方法

上記に鑑みて、寺院に関係する史料や、寺社奉行に関係する史料の分析に基づき、従来「宗教統制」の要素としてみられてきた幾つかの論点について、地域社会の実態を踏まえた再検討を行う。

寺院史料調査の柱として、連携研究者(途中まで)・研究協力者と共に、近江国柏原(現・滋賀県米原市)の成菩提院所蔵の文書を進める。成菩提院は京都町奉行配下の近江国に所在し、彦根藩領にも近い、天台宗の中本寺・談義所かつ寺院領主であり、末寺関係史料も多数所蔵している。中世文書や聖教も蔵し、中近世移行期からの論点の発掘も期待される。その他にも、研究代表者個人で寺院関係史料の調査を進める。

また、幕府などの寺社行政に関わる史料を検討し、法令の起案・制定過程、裁判や実務をめぐる遣り取り、実務をめぐる問答、さらには先例書の編纂者の私見などを丹念に検討する。

4. 研究成果

(1) 新地建立の制限に関する研究

幕藩権力による、必ずしも教団を単位としない寺院・僧侶の把握や、「宗教統制」を直接の目的としない寺社に関わる政策などを研究するうえでの、一つの重要な課題として、必ずしも教団組織を介さない、幕藩権力による宗教施設や宗教者の直接的、あるいは地域的な統制などにも、着目する必要がある。そのうち、宗教施設の把握・統制に関する問題として、江戸幕府による、新地ないしは新寺建立、すなわち寺社ないしは寺院の新規建立に関する、禁止や規制をめぐる問題を俯瞰的に検討した。

新地建立禁令をめぐるのは、先行研究で、元禄期までの展開については検討されてきた。また、新地建立の規制を、寺請を行う寺院を限定するものとして捉える研究が多かった。それに対し、元禄期までの展開を江戸・上方双方の動向に留意して俯瞰的に整理した上で、引寺の規制を含む元禄期以降の新地建立規制の展開や、新地建立に対する幕府吏僚などの認識に眼を向け、検討を行った。

検討の結果、まず、幕藩権力による、必ずしも教団を介さない、宗教施設の直接把握の動向を見出すことができた。すなわち、寺社改や寺社帳の作成であるが、幕府や遠国奉行による寺社改や寺社帳の作成は、遅くとも寛文期から、江戸などでの建築規制と関連しつつ行われている。それ以前からの、公許なき新寺の建立規制は、そのような文脈に吸収されていったように思われる。なお、新地建立の制限にかかる元禄五年令は、そういった寺社把握の過程で、寛永八年以後の建立寺院を排除することが不可能であることが明らかになってきたため、それらを「古跡」および「古跡並」として追認するという性格のものであろうと考えられる。一方で、これ以後に建立されるものは排除することが規定されたため、後から見れば一つの画期として捉えられた。

また、寺社改や寺社帳の作成に関しては、本末改との関係をみれば、(単なる本末関係に留まらない)個々の宗教施設の実態については、基本的には(全国的な)教団組織全体ごとの把握ではなく、支配ごと、ないしは地域的な把握が志向されたといえるのではないかと考えられる。ただしその調査に際しては、教団組織が利用され、関与することがある。

元禄期以降の動向としては、新地建立の制限をめぐる情報と、都市における古跡地・古跡並の認定に関する情報の錯綜、町道場をめぐる問題と、新地建立制限との関係、引寺をめぐる宝暦十二年令の影響の大きさなどを指摘できる。なお、先行研究にみられる、新地建立の規制と、寺請制度とを結びつける見解については、妥当ではないと判断できる。

(2) 地域的な教団に関する研究

全国的教団組織に包摂されない、地域的な教団組織に着手した。いわゆる「越前四箇本山」出雲路派毫撰寺（「五分市本山」、今立郡清水頭村、現越前市）、誠照寺派誠照寺（「鯖江本山」、今立郡鯖江、現鯖江市）、三門徒派専照寺（「中野本山」、足羽郡福井城下、現福井市）、山元派證誠寺（「横越本山」、今立郡横越村、現鯖江市）をその対象とした。近世において、これらの各派は十数ヶ寺～三十数ヶ寺程度の末寺を持ち、それぞれ独立した教団を構成して、宗としては真宗の範疇に含まれた。それぞれの教団は概ね越前国内に展開したが、誠照寺の教線は美濃などにも若干の展開をみせた。

まず、四箇本山各寺の、天台宗門跡との関係について検討した。従来、四箇本山の教団は、小教団であるが故に独立できず、存続の為に天台宗門跡の院家とならざるを得なかった、と説明されてきた。しかし、そういった評価が妥当ではなく、天台宗門跡の院家となることは、寺格としての意味や、官位補任のうえでの意味を持つものであって、教団存続のための要件とはなっていないことを明らかにした。

さらに、毫撰寺及びその教団を中心に、その教団組織の様相や、寺内機構について分析した。本来檀那の宗判をしない「直参所」＝「呼寺号」寺院が、本山直参の門徒への関与を強めようとする動向、道場守や「禅門成」といった俗人の葬儀への関与、他派から後住を迎える際の規定、本山の運営機構、改派・帰参 他派との寺院の移動 の様相などの実態を掘り起こした。

また、全国的教団ではない、これら四派に対する、幕藩領主による上申下達ルートについて検討を加えた。そ幕府からの上申下達ルートは、現地の藩を通ずるものが主だったと思われるが、近隣陣屋を通じての直接伝達が行われる事例も確認できた。また藩からのルートにおいては、末寺まで含めて考えると、寺社方ルートと地方ルートとが重複していた。このように、四箇本山の各派は、全国的教団への包摂を強いられることなく存在し、幕府の側も、その実態に応じた把握を試みていたように思われる。

そして、僧侶の修学課程についても検討を加えた。管見の状況を含め、各派の僧侶たちは、寺内での教育や本山での安居などのほか、宗派を超えた、地域的な、教学や漢学などの私的講義の場に連なり、学んだのではないかと思われる。

(3) 成菩提院所蔵文書の調査・研究

研究協力者（曾根原理氏・青柳周一氏・林晃弘氏の3名については、途中まで連携研究者）と共に、成菩提院文書の調査・研究を推進した。そのなかでは、史料整理・概要調査を行ったほか、岐阜県・滋賀県に展開する、成菩提院の旧末寺群のフィールドワークを実施し、分布状況、立地条件、旧状と現況などに関する知見を得た。その知見を、本科研と関連する共同研究の研究成果を含めて、成菩提院史料研究会編『天台談議所 成菩提院の歴史』に反映させた。

同書では、調査の成果について、近世に関しては末寺との関係や末寺組織の流動性、歴代の状況などを叙述した。また、その根拠となる史料や、さらには彦根藩との関係や寺檀関係の特質に関わる史料などの特質ある史料につき、校訂作業や、図版写真の撮影を行って収載した。

成菩提院所蔵の近世文書・近代文書につき、研究期間の途上で新出史料の発見もみられ、調査・整理の完了までには至らなかったが、今後さらに調査を進めて、調査・整理の完了、さらなる研究資源としての情報発信を目指すと共に、研究代表者としては、地域的な教団組織なりその中核に位置する寺院と広域支配との関係などのテーマにつき、史料分析を深めたい。

(4) 国際学会での報告、比較的研究

最終前年度、及び最終年度においては、研究成果を整理し深化させ、アメリカ・オランダ、及び韓国における国際学会・国際シンポジウムで報告を行った。AAS 2019 年次大会（3月）での報告、及び同年のライデン大学でのシンポジウム（書物の時代の宗教 日本近世における神と仏の変遷）では、偽法令など、とりわけ寺檀関係に関わる「宗教政策」「宗教統制」をめぐる通念に関する報告を行った。

一方、同年の韓国、東國大学校でのシンポジウムでは、中韓と日本との、政権と仏教教団との関係のありようの異同に留意し、日本近世における仏教教団の構造や、仏教教団に対する「統制」について、その前提となる諸条件を踏まえつつ検討した。中韓では、抑仏・廢仏の時期があり、国家による仏教統制のありように波があった。それに対して、日本の近世においては、幕府による抑仏・廢仏が行われた時期はなかった。また、中韓では、国家による、僧録司の設置や、度牒の発行、僧侶に対する試験制度などがある時期が

あったのに対し、日本の近世では、そういったものはなかった。そういった差異の、日本における前提条件として、仏教教団が政権のコントロールと保護のもとにあったことや、寺請制度の存在、地域社会における寺院の存在形態などを指摘した上で、幕府の教団に対する間接的支配による寺社統制の実態について述べた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 曾根原理	4. 巻 27
2. 論文標題 史料紹介 明治二年成菩提院第四十五世孝健『入院諸記録』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 160-170
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 林晃弘	4. 巻 690
2. 論文標題 幕府寺社奉行の成立と寺院政策の展開	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本史研究』	6. 最初と最後の頁 73-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 朴澤直秀	4. 巻 99
2. 論文標題 近世における「越前四箇本山」とその教団	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 桜文論叢	6. 最初と最後の頁 117-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 林晃弘	4. 巻 85
2. 論文標題 徳川家光代始の寺社政策と宛行状発給	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 古文書研究	6. 最初と最後の頁 34-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 林晃弘	4. 巻 2
2. 論文標題 肥後細川家と天龍寺真乘院・細川紹高家 永青文庫所蔵「真乘院口上書」に関する基礎的研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 永青文庫研究	6. 最初と最後の頁 85-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芹口真結子	4. 巻 60-2
2. 論文標題 新刊紹介 成菩提院史料研究会編『天台談議所 成菩提院の歴史』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 仏教史学研究	6. 最初と最後の頁 114-118
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野大輔	4. 巻 676
2. 論文標題 〔書評〕宇高良哲著『触頭制度の研究』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 53-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴澤直秀	4. 巻 60-1
2. 論文標題 新地建立禁令をめぐって	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 佛教史学研究	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴澤直秀	4. 巻 821
2. 論文標題 書評と紹介 幡鎌一弘著『寺社史料と近世社会』	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 101 ~ 103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計13件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 曾根原理
2. 発表標題 成菩提院と安楽騒動
3. 学会等名 近世の宗教と社会研究会例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 林晃弘
2. 発表標題 近世前期北近江の寺社
3. 学会等名 近世の宗教と社会研究会例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 朴澤直秀
2. 発表標題 寺檀制度をめぐる偽法令 (Forged Decrees and the Temple Registration System)
3. 学会等名 Symposium Religion in the age of the book :Changing Relations between Shinto and Buddhism in Early Modern Japan (書物の時代の宗教 日本近世における神と仏の変遷)、於ライデン大学 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朴澤直秀
2. 発表標題 日本近世の仏教教団をめぐる諸制度とその背景
3. 学会等名 2019年度東国大学校仏教文化研究院HK研究団秋期国際學術大会「東亜細亞近世仏教伝統の形成」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林晃弘
2. 発表標題 家光政権期の寺社奉行と寺院行政
3. 学会等名 第7回中近世宗教史研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 林晃弘
2. 発表標題 幕府寺社奉行の成立と寺院政策の展開
3. 学会等名 日本史研究会2019年大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦智博
2. 発表標題 近世宿駅の確立過程に関する試論 近江国柏原宿を中心に
3. 学会等名 日本史研究会近世史部会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上野大輔
2. 発表標題 〔講演〕寺町の形成と変容
3. 学会等名 都市のカルチュラル・ナラティブ（主催：慶應義塾大学アート・センター、共催：港区）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naohide Hozawa
2. 発表標題 The Temple Registration System: Conventional Wisdom and Forged Laws
3. 学会等名 2019 AAS Annual Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾根原理
2. 発表標題 天海の修業時代 関東天台寺院との関係で
3. 学会等名 第57回近世史サマーセミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mayuko Seriguchi
2. 発表標題 Questioning Doctrines: The Populace and Flows of Religious Knowledge
3. 学会等名 2019 AAS Annual Conference（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上野大輔
2. 発表標題 築地御坊配下寺院の編成と触伝達 相模国三浦郡最宝寺文書を手がかりに
3. 学会等名 第56回近世史サマーセミナー
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 朴澤直秀
2. 発表標題 新地建立禁令をめぐる
3. 学会等名 佛教史学会学術大会 合同部会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 早島大祐（分担執筆・林晃弘）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 616
3. 書名 中近世武家菩提寺の研究	

1. 著者名 神仏分離150年シンポジウム実行委員会（分担執筆・上野大輔）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法藏館	5. 総ページ数 192
3. 書名 神仏分離を問い直す	

1. 著者名 青野誠/岩田真美/上野大輔/大澤広嗣/大谷栄一/碧海寿広/落合建仁/桐原健真/オリオン・クラウタウ/ジャクリーン・ストーン/芹口真結子/高橋秀慧/谷川穰/林淳/引野亨輔/船田淳一/ジョン・ブリーン/朴澤直秀/星野靖二/松金直美/三浦隆司	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 390
3. 書名 カミとホトケの幕末維新	

1. 著者名 大谷 栄一、菊地 暁、永岡 崇編著、上野大輔、松金直美、朴澤直秀他執筆	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 450
3. 書名 日本宗教史のキーワード	

1. 著者名 成菩提院史料研究会	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 450
3. 書名 天台談義所 成菩提院の歴史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	曾根原 理 (Sonehara Satoshi) (30222079)		途中まで連携研究者
研究協力者	青柳 周一 (Aoyagi Shuichi) (40335162)		途中まで連携研究者

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	林 晃弘 (Hayashi Akihiro) (10719272)		途中まで連携研究者
研究協力者	梅田 千尋 (Umeda Chihiro)		
研究協力者	東 幸代 (Azuma Sachiyo)		
研究協力者	小松 愛子 (Komatsu Aiko)		
研究協力者	青谷 美羽 (Aotani Miu)		
研究協力者	松金 直美 (Matsukane Naomi)		
研究協力者	上野 大輔 (Ueno Daisuke)		
研究協力者	芹口 真結子 (Seriguchi Mayuko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	松浦 智博 (Matsuura Tomohiro)		